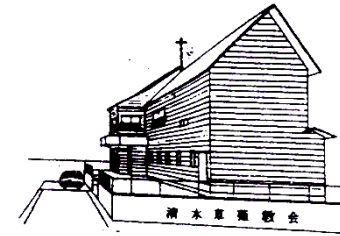


週報

2008年 10月 19日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上定幸

| | | |
|---------|---|----------|
| 教会学校 | 毎日曜日 | 午前 9:00 |
| 礼拝式 | 毎日曜日 | 午前 10:30 |
| | (聖餐式 第一日曜日) | |
| 夕礼拝式 | 毎日曜日 | 午後 7:00 |
| エステル公会 | 毎水曜日 | 午前 10:30 |
| 聖書研究祈禱会 | 毎水曜日 | 午後 7:00 |
| ホームページ | http://kusanagi.church.jp/ | |

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

《今朝の聖書から》今朝は、ペンテコステ第24主日になります。降誕節も、復活節もそんなに長くは続きません。1年は52週ほどなのに、なぜ、聖霊降臨節だけがこんなに続くのでしょうか。それに聖書箇所も、なんだか、だんだん難しくなっていくように思えたかもしれません。それは御子イエス様が、いったいどのような方であったか、私たちが良く理解するためかも知れません。理解できればそれだけ、主の降誕を祝うクリスマスが素晴らしくなるはずです。アドベントを迎えるのに、“イエス様がどのような方でありどんな働きをされたのか”いよいよ、私たちが知るように、心を整えたいものです。イエス様は神様の世界を携えてこの世で救いの働きをされました。人は一度、全く罪に定められました。しかし神を知る性質が残されていました。“霊性”という言葉をよく使いますが、この神様の世界を知る性質のことでしょう。ですから霊的であるということは、この神様に敵対することを目的にしているかのような世の中で、この神様のことを体験するか、しないかのことを意味するのでしょうか。主を知る知識の絶大さ(ピリピ3:8)については、全てに打ち勝つ力を与えてくださることを、私たちも知っているとおります。今朝の箇所はイエス様の喜びの歌で始まっています。13節で“彼ら”とありますのは、とりもなおさず私たちのことです。イエス様は、私たちを守ってくださることを神様にお願いされます(15節)。さらに“世が信じ知るため”という目的が21節、23節に記されています。多くの人々に神様の救いが訪れるために、その手段が、私たちの信仰の内に置かれたのです。“あなたがわたしをおつかわしになったことを(彼らは)知っています(25節)”。この世の中が救われることを、信仰者の群れの力に、ただその力だけに、イエス様は託されているのです。私たちは“主の祈り”を知っていますが、それも教えられたもの、伝えられたもの、また世界中の教会が聖餐も守っていますが、これも教えられたものです。“神様!”で始まり“御名によって、アーメン”というお祈りの言葉も、ここで記されている“彼ら”によって教えられ自分の祈りの言葉にしたものなのです。神と御子との一致を映し出す、この私たちの教会だからこそ、素晴らしくなければ、私たちが困るのです。